

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
（総括・分担）研究報告書

松本サリン事の知見

研究分担者 那須 民江 中部大学生命健康科学部 特任教授

研究要旨

東京地下鉄サリン事件のアーカイブ化に於いて、松本サリン事件における知見の活用を検討した。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

（分担研究報告書の場合は、省略）

A．研究目的

松本サリン中毒事件は1994年6月27日の深夜に発生した。松本市地域医療包括協議会では「有毒ガス中毒医療対策専門委員会」を立ち上げ、「健康調査委員会」と「病・医院連絡検討会」を傘下に置き、調査を開始した。健康調査委員会では10年間にわたって中毒者の健康について調査を行った。この研究ではそのデータをアーカイブ化し、教訓を学ぶとともに、今後の同様な事件発生の際に資する情報を蓄積する。

B．研究方法

本年度はどのようにデータを収集するか議論にあてた。松本サリン中毒事件の場合、多くのデータが報告書や論文化されている。しかし一部にはまだ論文化されていないものもある。論文化を急ぐとともに、松本サリン中毒事件にかかわるすべてのデータを収集する。今年度は計画の議論のみであったので、倫理面への配慮は不要であった。

C．研究結果

議論した結果は次の通りである。1. 松本サリン中毒事件の報告書および論文を収集し、アーカイブ化に備える。2. 10年経過しても「目の疲れ」や「体の疲れ」といった自覚症状があるので、報告されている文献を参照にその原因を探る。3. 10年目の調査の結果を論文化する。4.

東京地下鉄サリン中毒事件の中毒者との臨床症状や自覚症状の違いを明らかにする。5. 可能であれば、12リットルのサリンが放出された場合の近隣住宅地へのサリン濃度シミュレーションを行い、中毒重症度や中毒症状とサリン濃度との関連性を明らかにする。

D．考察

次年度の結果を待って考察する。

E．結論

次年度の結果を待って結論を出す。

F．健康危険情報 該当なし

G．研究発表

1. 論文発表（英文論文は旧姓Nakajimaを使用している）

1) Tamie Nakajima. Sarin Attacks in Japan: Acute and Delayed Health Effects in Survivors in the Matsumoto case. In Gupta/Handbook of Toxicology of Chemical Warfare Agents (3<sup>rd</sup> ed), Elsevier (in press)

2. 学会発表

名古屋市消防学校における講義（中毒概論 - 基礎編、特殊災害事例 - 松本サリン中毒事件の検証、特殊災害事例 - タリウム等による中毒 2019年12月16日）

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし